

— 徳島県 —

那賀川（和食・土佐地区） 床上浸水対策特別緊急事業

1. はじめに

那賀川は、徳島県の南部に位置し、その源を那賀郡の剣山山系のジロウギユウに発し、阿南市で紀伊水道に注ぐ流路延長125km、流域面積874km²の一級河川であり、「阿波の八郎」の愛称で親しまれている。

一方で、流域は年間平均降水量が3,000mmを超える「日本有数の多雨地帯」であることや、四国山地の南東斜面に位置することから、特に台風通過時に大雨が降る傾向がある。過去には、昭和46年台風23号、平成16年台風23号をはじめ、度々浸水被害に見舞われてきた。

特に、下流の「古庄水位観測所」において観測史上最大流量となる約9,500m³/sを記録した「平成26年台風11号」では、和食・土佐地区において、氾濫危険水位を約5m上回り、床上浸水233戸、床下浸水46戸にも及ぶ甚大な被害が発生した。

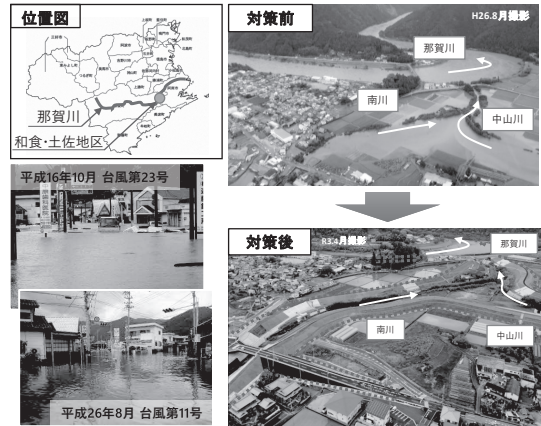
これを契機として、再度災害を防止するため、平成27年度より「床上浸水対策特別緊急事業」に着手した。

2. 事業概要

本事業は、約4.5kmの堤防・護岸整備を行うとともに、これに伴う一般国道195号の嵩上げ・橋梁の架替えなどを実施するものである。また、工事に必要となる用地については、211名の地権者から約18haなどの協力を得る必要があった。

このような大規模な事業を短期間で完成させるため、地元那賀町と緊密に連携した用地交渉を展開するとともに、工事受注者と定期的な工程調整会議を開催し、円滑な工事進捗を図った。また、堤防の盛土工事ではICTを活用することで省力化・品質確保を行いつつ工期短縮を図った。

途中、付近で大規模な埋蔵文化財調査を実施したほか、付け替えの必要な生活道路の構造を安全面から見直したため、完成予定が1年延びたものの、総事業費約97億円の事業を6年間という期間で完成させることができた。



被災状況及び築堤完成写真

3. 築堤完成式の開催

令和3年5月15日に現地において、徳島県・那賀町主催の完成式典を開催した。国土交通省や地元住民等の関係者51名が出席し、あいにくの雨模様であったが、徹底したコロナ対策のもと、地元有志による人形浄瑠璃の披露、くす玉開披や祝い饅頭配布などにより住民の方々と築堤完成を祝うことができた。



人形浄瑠璃（寿二人三番叟）

くす玉開披

4. おわりに

本事業の完成により、「平成26年台風11号」と同規模程度の出水があっても、河川の氾濫を防ぐことが可能となり、「家屋や公共施設などの浸水被害」や「緊急輸送道路である一般国道195号の冠水に伴う通行止め」などが解消され、地域住民の安全で安心な暮らしの確保に大きく寄与するものと考えている。

当庁舎では、今後とも、気候変動に伴い、頻発化・激甚化する豪雨災害を迎え撃つため、「流域治水」の考えのもと、那賀川流域の「治水安全度」の向上を図る「水災害対策」をしっかりと推進して参りたい。

徳島県 南部総合県民局 県土整備部 那賀庁舎